

2018年 12月冬期特別号 ゼミナール通信 “鳥瞰するが如く”

薩摩藩英国留学生 13歳でイギリスへ留学した 長澤鼎(ながさわかなえ)

10月20日、第5回親子座を開催し、約100名の方にご参加頂きました。今年の親子座は、オープニングとして当ゼミナールの英語講師の児玉早先生(片野田音楽アカデミー講師、第11代目霧島ふるさと大使)に「花は咲く」「西郷どんのテーマ」など数曲をピアノで演奏してもらいました。

そして、教育講演では、講師に鹿児島国際大学教授 森孝晴先生をお招きして、「薩摩藩英国留学生 長澤鼎(ながさわかなえ)とその後」という演題で鹿児島の偉人にスポットを当てた講話をして頂きました。



長澤鼎は13歳で薩摩藩英国留学生としてイギリスに渡ります。その後アメリカのカリフォルニアに渡り、サンタローザで生涯を閉じました。その生涯の中で、アメリカのワイン産業に大きな功績を残し、「カリフォルニアのワイン王」と呼ばれるまでになりました。

さらに彼の少年時代から晩年まで、いずれの写真からも窺える彼自身の堂々とした姿、そして表情。それはまさに、外国にいながらも心の中に薩摩武士道を据えた「サムライ」の姿でした。長澤鼎という名前を初めて聞いた生徒たちも、自分たちと同じ年齢で世界に目を向け、異国の地で必死に勉学に励み、自分自身を強く持ち続けた彼に勇気をもらえたのではないのでしょうか。

今回は、生前長沢鼎が使用していた茶筒を見せて頂きました。長沢鼎の遺品はほとんど残っていないらしく、現存する貴重な品だそうです。

「若き薩摩の群像」

鹿児島中央駅前に「若き薩摩の群像」があるのをご存知でしょうか。19名の若き薩摩の侍たちです。そのうちの一人がブドウを手にかけています。それが、留学生の中で最年少の若年13歳、長澤鼎です。



知識を役立てること

フロンによるオゾン層破壊の問題。この問題を取り上げた文章が中学3年生の2学期末テストで出題されていました。「フロン規制の物語ー(杞憂)と(転ばぬ先の杖)のはざま」 という題で国語の教科書にも掲載されています。

テスト後にフロンや温室効果ガスに関する話を少しだけしてみたのですが、子どもたちの反応はいまいち。全く関心がない生徒もいました。同じように、中学2年生の理科で天気図の見方や日本の四季の特徴を学習しても、日頃テレビで天気予報を見るときは、天気と気温だけしか意識していないみたいです。知識として言葉は覚えていても「勉強をした内容」と「日常生活」が子どもたちの中では別々になっているように感じます。

日常生活の中で身に付けてほしいことが「考えること」と「工夫すること」です。勉強して『役に立つ知識を身に付けること』も大切です。しかし、それ以上に『どうやって知識を役立てるか』が大切です。自分で考え工夫して身に付けたことは『糧(かて)』になります。これが良い連鎖を起こしてくれれます。知っていることを活かしたとき、自分で自分を褒めてあげたくありませんか? 学ぶことの喜びを実感できるときは、心が「よし!」とガッツポーズをしているときです。そのときこそ、気持ちいいと感じる瞬間、「考えること」「工夫すること」にハマる瞬間です。(内村)



本を読もう、世界を広げよう

『ハルさん』 藤野恵美 著 (創元推理文庫)

『瑠璃子さん・・・今日はね、ふうちゃんの結婚式なんだよ。まさか、この僕が「花嫁の父」になるなんて・・・』結婚式の日、ハルさんは思い出す、娘の成長を柔らかく彩った五つの謎を。心底困り果てたハルさんのためにいつも謎を解き明かしてくれるのは、天国にいる奥さんの瑠璃子さんだった。

頼りない人形作家の父と、日々成長していく娘の姿が優しく描かれています。娘の成長を温かく見守る父親と幼少のあどけない女の子から思春期の娘の心の成長、そして、結婚していく娘の父親への感謝がとても柔らかく、温かに描かれています。娘を持つ父親は、涙をぼろぼろ流してしまうかもしれないので、家族に見られないように隠れて読むことをお勧めします。

この本とはちょっとした出会いのエピソードがあります。私が娘と古本屋で物色しているときに、娘がたまたま見つけて表紙を見せてくれました。タイトルの「ハルさん」、登場する女の子「ふうちゃん」。実は二人とも私の家族の名前と同じなんです。「これも何かの縁かな。読んでみよう。」と思ったのが、この本を手にとったきっかけでした。

本を探しに図書館や本屋さんには足を運んでみてはいかがでしょうか。意外なところで本との出会いがあるかもしれませんよ。(内村)



受験生、今が踏ん張り時

塾と学校での進路に関する面談も終わるころですが、受験校を決断する時期になりました。第一志望校を諦めかけている人はいないでしょうか? 残り3ヶ月間、本気になって勉強に励めばまだまだ伸びます。今の点数で安易に志望校を変えてはいけません。もっと努力して、努力した後の成功体験をつかまなきゃ!それが受験を通して得られる最も大事なことなのです。

さて、君は今、受験のプレッシャーを強く感じていませんか? 「落ちたらどうしよう?」と考えることが多くなっていませんか? 誰もが入試のことを考えると不安になります。そのマイナス要素だけを考えるのはやめましょう。不安が募るばかりで何をどう勉強したらいいのかわからなくなってしまうからです。

では、どうやったらプレッシャーから解放されるのか? 簡単です。

1.その日の授業に集中すること。 2.小テストで満点を取るように準備すること。 3.小テストやテストのやり直しをして覚えること。 4.今やっているところが入試に出題されると信じる。そうすれば日々の学習の集中度が増していき、入試に挑むという積極的な精神が生まれてくるものです。そしてこの期に及んでは、開き直りも大事なんです。結果は受け入れるしかないのだから。

さあ、落ち着いたらラストスパートの開始です。丹田に力を込め、気合を入れて。

本を読もう、世界を広げよう

「さよなら、B玉父さん」 阿月まひる 著 (角川文庫)

今電車の中で「さよなら、B玉父さん」を読み始めた。やばい、目が潤んできた。電車の中でこんな本を読むもんじゃないな、と思いつつもページをめくった。ぐっ、ううっ、はあ、もう限界。帰ってから読むとしよう。



自分しか愛せない、ろくでなしのクズ男のコンのもとに、2年ぶりに8歳の息子ユウが「コンをいらんもんにしたくて」やってきた。新しいお父さんができたので、さよならを言うために。

ユウは、潔くて出来るお母さん(コンの元妻)とやさしくて新しいお父さんのもとで育っていく。しかし心の中に空いている穴を埋めるために何回かコンを訪れるようになる。

もう一人重要な人物が登場する。金髪で、夏だというのにブーツを履いている16歳の少女キャロン。関西に出てきて有り金をすられ、拾った500円玉で競馬場にやってきたという。その換金所でコンと出会う。そのキャロンも二十歳になった4年後にはコンを離れて新しい人生を歩んでいく。

この二人によってコンはもう少しまともな大人にそして父親に仕上げられていく。もちろん、二人にとってもコンは無くしてはならない存在なのだが。元妻の椿姫(つばき)も思い出の中、夢の中に現れては、強烈な言葉を突きつけてくる。「もうお前なんか要らへんねん」と。

そしてユウが就職し結婚して子供ができたとき、コンは50歳になった。そのとき二人にひとつの転機が訪れる・・・。(八木)

第2回英語検定の結果 (10/6 実施) 合格者数/受験者数

準2級	3 / 3	3級	10 / 16
4級	21 / 22	5級	2 / 2

第3回英語検定は1月26日に実施予定です。

※2次面接試験の指導もしています。(国分・隼人教育ゼミナールは、準会場登録団体です。)

漢字検定の結果 (7/13,10/27 実施) 合格者数/受験者数

準2級	1 / 8	3級	5 / 11	4級	10 / 22
5級	13 / 18	6級	8 / 10	7級	1 / 2
8級	3 / 3	(国分・隼人教育ゼミナールは、認定準会場です。)			

座・閑話

私は今、菜の花マラソンに向けて減量真ただ中。先日も15Kmほど走りましたが、走るだけではなかなか体重は減ってくれません。大敵は仕事が終わってからの食欲です。これに打ち克つのがちと難しいところなんです。

「何を食べれば、お腹が落ち着くのだろうか? もちろん脂肪をつけずに。」と内村先生に相談すると、豆腐がいいですよとの返答。なるほど、鹿児島弁では「おかべ」と言うから、脂肪が攻めてくるのを「お壁」でブロックするということか・・・? 「もやしも良いですよ。酢をかけて。」これもよさそうですね。脂肪を燃やしま酢ってね・・・??

親父ギャグを言っている場合ではない! ?真面目に減量に取り組まないと! (めーめー仔やぎ)